

催し物のご案内 (1999年7月～9月)

観察会・講座等

夏休み自由実験室・自由研究相談室

[博物館] 友の会共催

実施日：7月20・24・25日、8月1・3・4・5・21・22日(9日間) 時間：10:00～15:00
 内容：実習実験室を開放し、顕微鏡観察、標本作り、研究相談など自由に学ぶ
 対象：子どもから大人まで
 申込：参加日の5日前まで

シンポジウム「伊豆・小笠原弧の研究」

[博物館] 湘南地球科学の会共催

日時：7月24日(土) 13:00～16:00
 内容：地層・岩石の最新の研究成果を基に、神奈川の大地の成り立ちを紹介、発表、討論する
 対象：一般70人
 申込：6月22日(火)～7月13日(火)

神奈川の自然を歩く(4)

野外観察「箱根山で植物群落を観よう」

[箱根町]

日時：7月28日(水) 10:00～15:00
 内容：植生の移り変わり、植物群落の見方を学ぶ
 対象：一般40人
 申込：6月22日(火)～7月13日(火)

室内実習「化石研究(中津化石)」[博物館]

日時：7月29・30・31日(3日間) 10:00～15:00
 内容：中津層化石の教材利用のための

基礎講座

対象：教員・一般10人

申込：6月22日(火)～7月13日(火)

講演会「伊豆の海から生まれた日本の中心・神奈川」[博物館]

日時：8月1日(日) 13:30～15:00
 内容：神奈川の大地の生い立ちを多角的に紹介する
 講師：濱田隆士(当館館長)
 対象：一般70人
 申込：6月29日(火)～7月20日(火)

室内実習「ほ乳類の歯の進化」[博物館]

日時：8月6・7・8日(3日間) 10:00～15:00
 内容：館収蔵の標本を使って、ほ乳類の歯について系統的に学ぶ
 対象：一般20人
 申込：6月29日(火)～7月20日(火)

室内実習 & 野外見学会「三浦半島の活断層」

[三浦半島・博物館]
 横須賀市自然・人文博物館共催
 日時：8月21・22日(2日間) 時間：21日 13:30～15:00 22日 10:00～15:00
 内容：活断層の成因などを学習した後、現地観察する
 場所：三浦半島
 講師：総合研究プロジェクトメンバー
 対象：一般40人
 申込：7月20日(火)～8月10日(火)

講演会「神奈川の地震」[博物館]

日時：9月5日(日) 13:30～15:00
 内容：神奈川の地震について、最先端の研究を紹介する
 講師：神奈川県温泉地学研究所研究員
 対象：一般70人
 申込：8月3日(火)～24日(火)

室内実習「日時計を作ろう」[博物館]

日時：9月23日(木・祝日) 10:00～15:00
 内容：日時計の原理と作り方・使い方を学ぶ
 対象：中学生以上一般20人
 申込：8月17日(火)～9月7日(火)

神奈川の自然を歩く(5)

野外観察「箱根山でコケ・動物を観よう」

[箱根町]
 日時：9月29日(水) 10:00～15:00
 内容：箱根でコケ、キノコ、小動物を観察する
 対象：一般20人
 申込：8月24日(火)～9月14日(火)

申し込み方法：往復はがきに参加代表者の住所、氏名、電話番号(連絡先)、参加する人全員の氏名と年齢(学年)を明記して、お申し込みください。応募多数の場合は抽選となります。

ライブラリー通信

里 山

近年、「里山」という語をしばしば見聞きするようになりました。里山とは一般的には「人里近くにある、生活に結びついた山」『大辞泉』(小学館)と定義されています。里山と聞くと多くの人は、唱歌「ふるさと」に歌われる情景を想像するのではないのでしょうか。若い人ならアニメーション映画「となりのトトロ」にでてくる風景かもしれません。

里山は、私たちの祖先が多大な努力と長い時間をかけて作り上げてきたいわば人工的・二次的自然で、日本の代表的風景でもあります。ところが、都市部近郊では無秩序な開発が進み急速にその姿を消しつつあります。辛うじて残っている所ではその保全のための運動も起きています。

ところで、この里山という語、以前はあまり耳にしませんでした。いつ頃から使われるようになったのでしょうか。岩波の『広辞苑』によれば第四版までは記載がなく第五版(1998)から里山の語が採られています。1989年刊行の講談社『日本語大辞典』では既にこの語の記載がありますが、いずれにしても言葉としては比較的最近、80年代後半から一般に使われ始めたのではないのでしょうか。里山という語を含むタイトルの図書を検索すると90年代に入ってから刊行されたものがほとんどです。

しかしながら、農学研究者の間ではそれよりかなり前から使われていたようで、元名古屋大学農学部教授の只木良也氏によれば「1960年代から広く使われ始めた」『森林科学』(日本林学会 1997.10 No.21)とあります。研究者たちの間ではかなり前から使われ始め、それが20年近くかけて徐々に一般化してきたということでしょう。誰が最初に里山という語を使い出したかということになると、いまひとつはっきりしませんが『森とつきあう』(渡邊定元著・岩波書店)では「四手井綱英京都大学名誉教授がはじめて使用したといわれている」という記述があります。

ともあれ、里山の語は現在ではすっかり定着したようです。この里山という語を聞いただけで、私たちは日本の原風景のイメージを共有できるようになったという点には大きな意味があるのではないかと思います。

(司書・内田 潔)

特別展のご案内

「伊豆の海から生まれた神奈川—伊豆・小笠原弧の形成と活断層—」

横須賀市自然・人文博物館共催

平成11年7月17日(土)～9月5日(日)

南からやって来た伊豆・小笠原弧が本州弧に衝突しているところに位置している神奈川は、地殻変動が激しく、活断層や火山が活動しています。世界でも稀な、島弧と島弧の衝突地帯にある神奈川の生い立ちと活断層について紹介します。

[主な展示品] 伊豆・小笠原弧海底地形模型、南の海で堆積した丹沢山地火山砕屑岩類、丹沢山地に露出する地殻の内部でできた石英閃緑石、結晶片岩類。海底の堆積物でできた三浦半島三崎のスラング構造、繰り返えされる伊豆大島・三宅島の噴火と溶岩、箱根火山の溶岩、液状化現象。三浦半島の活断層の北武断層模型、県西部の国府津・松田断層模型など。

[特別展観覧料] 20歳以上(学生を除く) 200円 20歳未満・学生 100円 高校生以下・65歳以上 無料